

新ビジョンへの提案

持続する福岡の発展

2011.8.31

所管横断的テーマに関する職員提言チーム D班

も く じ

1 ビジョン

私たちが考えるビジョンとは	1
時代の転換期に対応するビジョン	2
新ビジョンによって変えたい現状	3
新ビジョンにより変える	4

2 提案

社会・環境・経済のバランスよい発展～持続可能な発展～	5
“強み”により持続する発展を生み出す	6
福岡の強みとは	7
新ビジョンへの提案:福岡型の持続する発展	8

3 発展

好循環を生む6つの発展イメージ	9
①多様な交流による発展	10
②世界的なイベントを開催し続ける発展	14
③水・緑と文化創造が調和する都心の発展	18
④地域愛が満ち溢れる自律型コミュニティの発展	23
⑤明確な都市軸に住みやすさが持続する発展	27
⑥身近な自然を活かした発展	33

4 まとめ「私たちが考える新ビジョン」	37
---------------------	-------	----

5 最後に	38
-------	-------	----

私たちが考えるビジョンとは

指し示す

みんながめざす 方向性 を示すもの

共感でつなぐ

誰もが 共感 できて 実現に向かう もの

福岡らしさ

独自性 にあふれ、
福岡市で しかできない もの

福岡市に対する内外からの
共通認識・イメージ の確立

1

私たちが考えるビジョンとは

(ビジョンの中身もさることながら、ビジョンのあり方も突き詰めたい)

- ・ ビジョンとは、25年後、さらにその先の将来に渡る福岡市の姿を 指し示す もの。施策を集めたものでもなければ夢物語でもない。福岡市に関わる すべての人 が、「福岡は〇〇のまち」、「福岡のビジョンは〇〇」と 語れる もの。
- ・ ビジョンの実現に向けては、福岡市に関わる人々の 理解と納得 が必要。押しつけでも行政だけのものでもなく、「共感」による人々の行動・活動により、福岡市の発展の 実現につながる もの。
- ・ 福岡市のビジョンは福岡 らしい、福岡 独自 のもの。他都市でも同じことが言えるような内容ではなく、福岡で しかできない こと、福岡 だからできる ことを突き詰めたもの。
- ・ 新ビジョンにより、大人も子どもも、日本人も外国人も、男性も女性も、福岡市内から、都市圏から、九州から、国内から、アジアから、世界から見ても、「福岡市って〇〇なまちだよ」と 共通認識 を持ってもらえる、アイデンティティ (福岡市のイメージであり福岡市のめざすもの) となるもの。

時代の転換期に対応するビジョン

現在、将来につながる状況

人口構造の 変化

人口減少や少子高齢化は「日本一元気なまち」福岡にも例外なく訪れる。

ヒト・モノの 流れの変化

「交流拠点都市」がゆえに、福岡・九州のヒト・モノの流れやアジアの台頭に強く影響を受ける。東アジアの経済重心は福岡を通り過ぎてユーラシア大陸方面へシフト。

量から質への対応 (既存の枠組みの限界)

成長の時代を終え、量的満足のみならず質的向上が求められる。環境、快適性、多様性、国際性など。

これらに対応する
新たなビジョンが必要

2

データから推測される将来【データ編】
(発展、成長につながる状況のピークアウト)

■人口構成の変化

- ・日本 史上初めて迎える人口減少
- ・今後25年間で19万人の高齢者が増加(全人口の半分以上)
- ・若者の多いまち福岡でさえ、若者人口は減少に推移
- ・高齢者やこどものいない世帯が増加

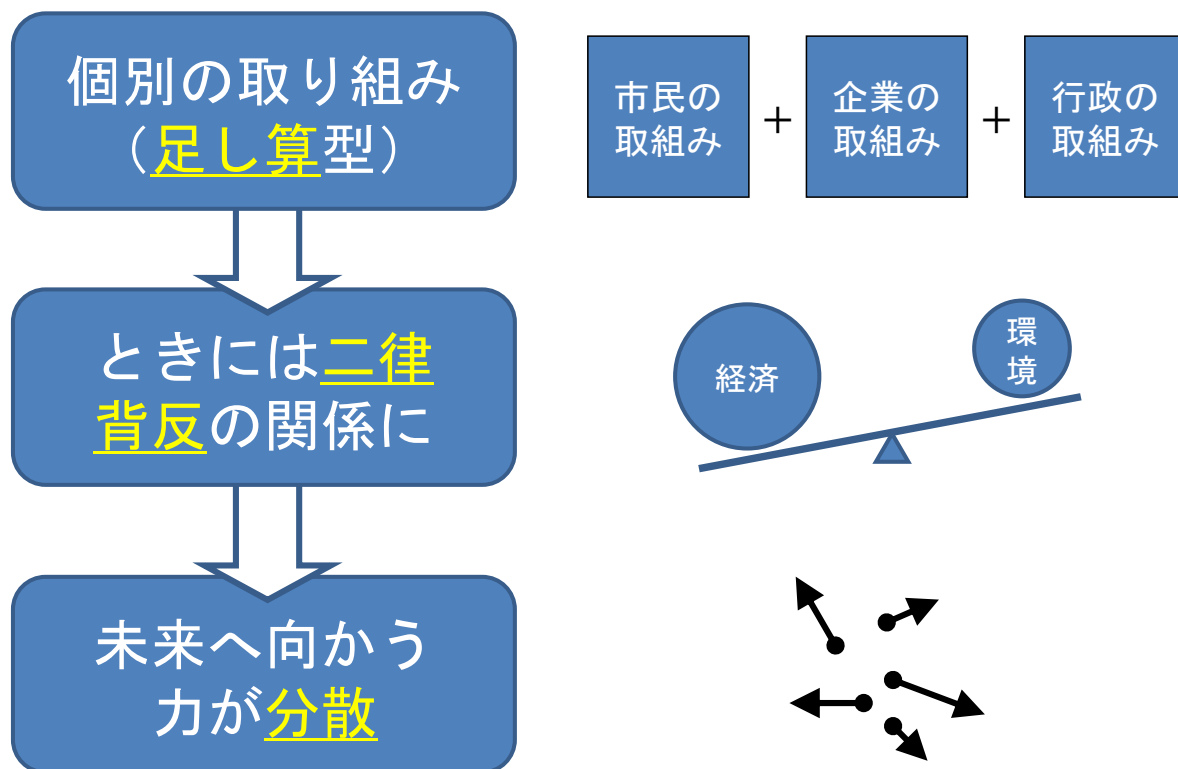
■ヒト・モノの流れの変化

- ・アジアの富裕層は10年後 日本の3倍に
- ・東アジアの経済の重心は東→西へシフトしており、2005年には 福岡を通過 (福岡は重心の通過前後に発展してきた!?)
- ・福岡経済を支えている商業は低迷
- ・大都市に比べて就業機会が少ない
- ・財政の更なる逼迫

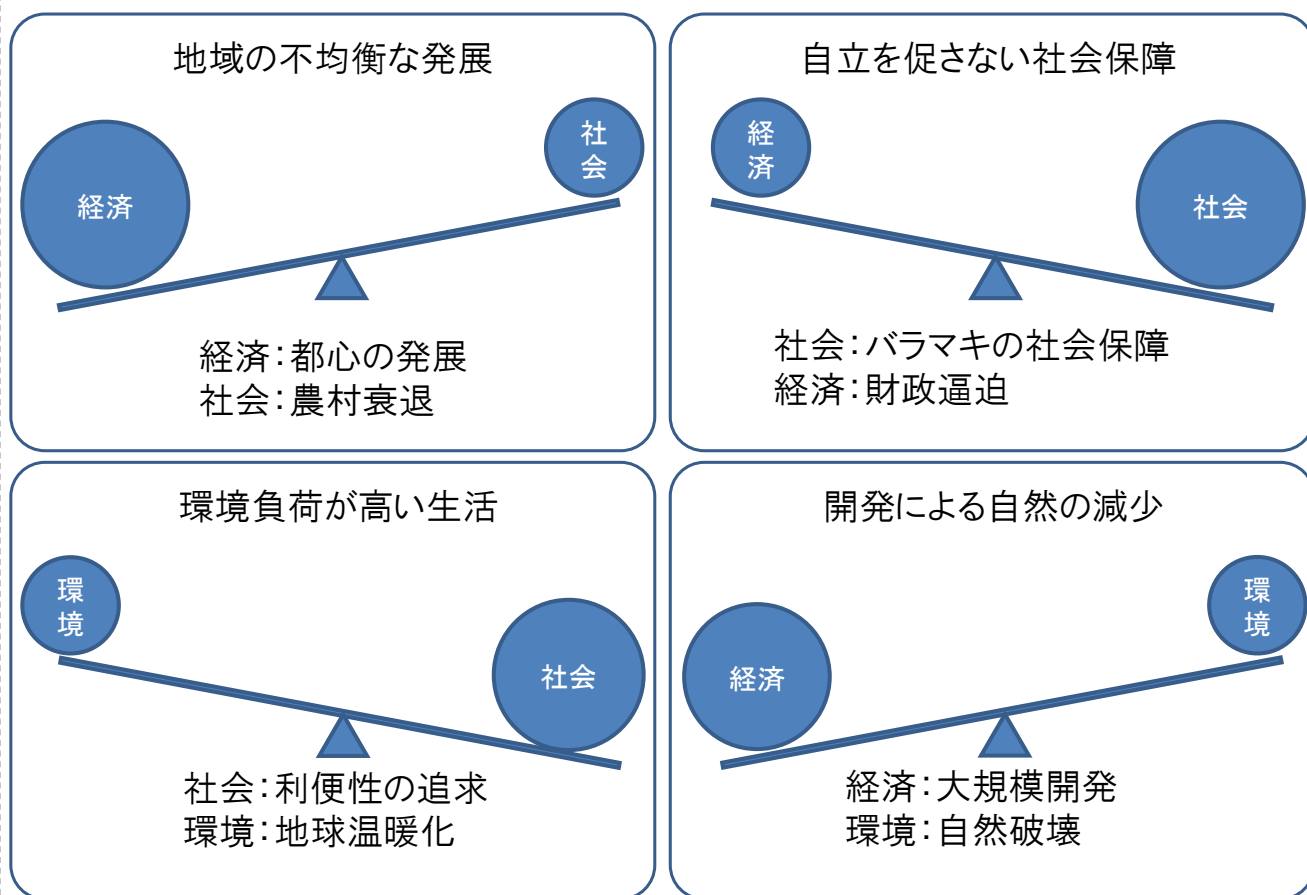
■量から質へ

- ・温室効果ガス排出量は世界的な課題
- ・緑の量は年々減り25年前から1割減少
- ・犯罪、マナーに不満を感じている
- ・文化・交流・経済・研究での 低い評価

新ビジョンによって変えたい現状

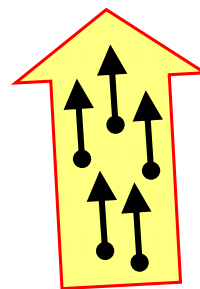
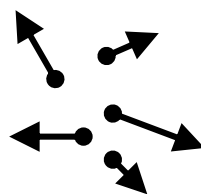


変えたい現状(二律背反の例)

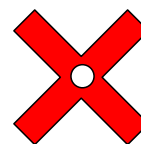
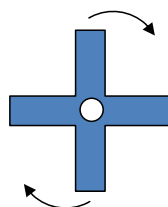


新ビジョンにより変える

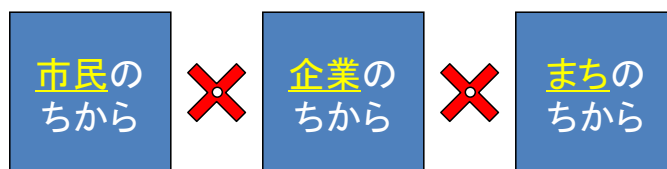
分散している
力を束ねる



足し算型から
かけ算型へ



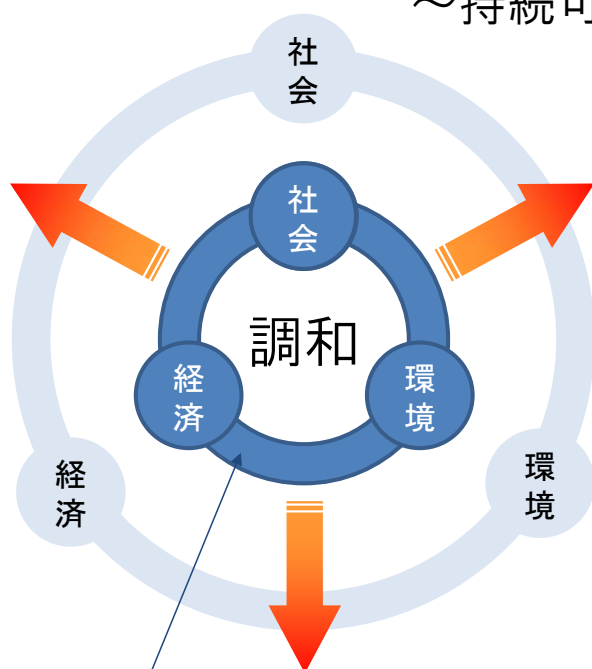
未来へ向かう
ちからをつなぎ
調和させる



行政：つなぐ役割

社会・環境・経済のバランスよい発展

～持続可能な発展～



社会

住環境、オープンスペース、医療、福祉、文化、治安等

環境

自然環境(水・緑)、エネルギー、廃棄物、環境負荷、生物多様性等

経済

収入、生産、雇用、消費、産業・職種の多様性等

この3要素の「調和の輪」を大きくしていく

5

<参考>ヨーロッパ(EU)の共通戦略

「持続可能な発展」:

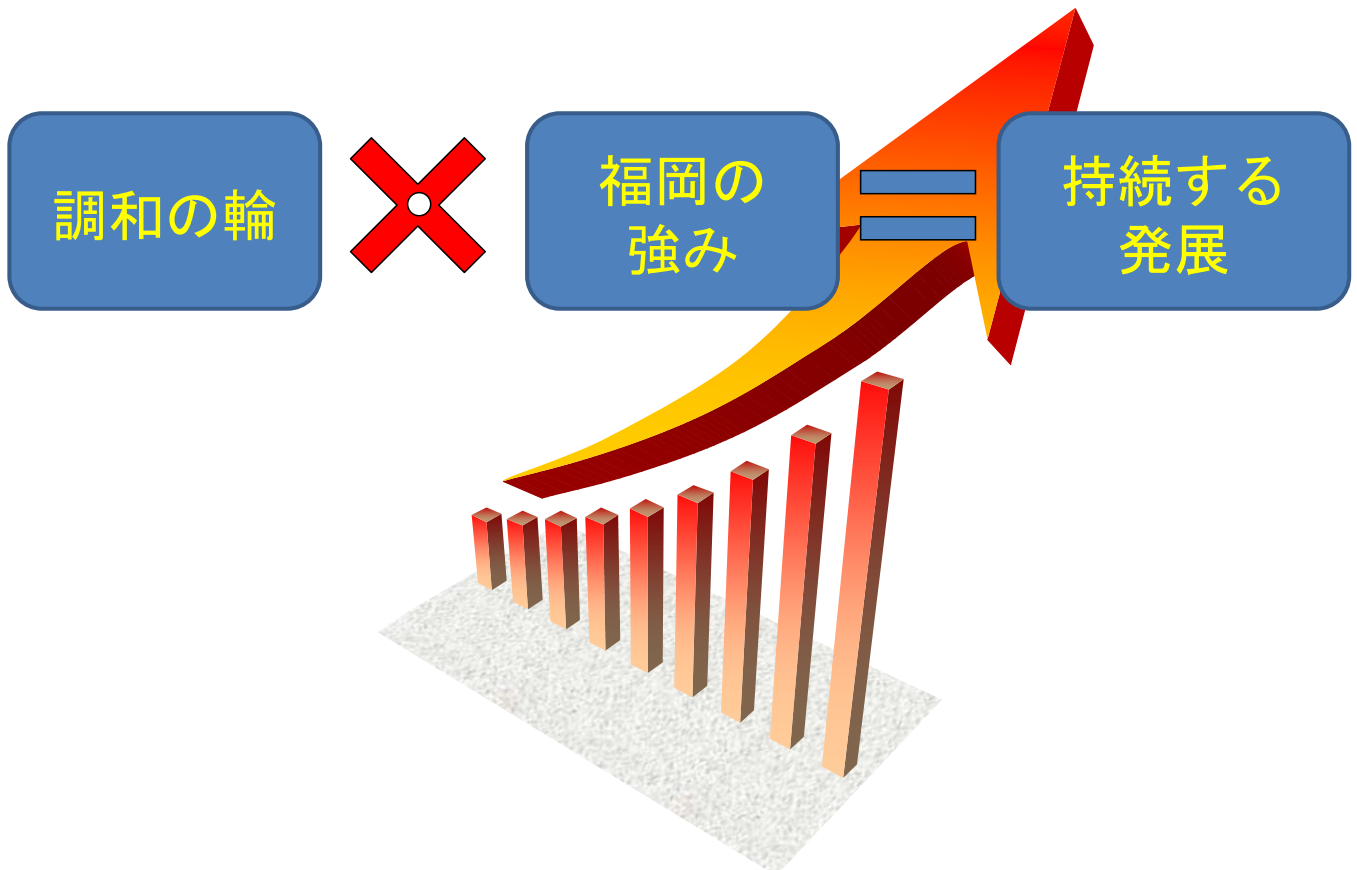
将来世代のニーズを満たしていく能力を損なうことなく、現世代のニーズを満たすという意味での持続的な発展を遂げること。



ヨーロッパ全体でバランスのある競争力の経済的発展

環境、自然資源、文化遺産の保全

“強み”により持続する発展を生み出す



6

「持続可能」に独自の強みを掛け合わせ「持続する発展」に進化させる

- ・ 強みを活かすことで、福岡市らしく発展する。
- ・ 強みを活かすことで、ひずみを生むことなく飛躍する。
- ・ 強みを活かすことで、少しの作用(エネルギー・資金)でも大きな成果(発展)を得る。大きな作用でもっと大きな成果を得る。
(てこの原理のように。)
- ・ 強みとなる潜在力を活かすことにより、生きがいを感じてもらう。
- ・ 強みとなる潜在力を活かすことにより、存在意義を高めてもらう。
- ・ 強みとなる潜在力を活かすことにより、いろいろな人が「輝ける居場所」をつくる。

福岡の強みとは

交流する力

魅力ある都市の力
コンパクトさ、住みやすさ

まだまだ活かされていない資産

7

福岡の強みとは

交流する力

- ・アジアとの交流の実績とノウハウやネットワークの蓄積
- ・交流拠点を支えてきたチャレンジする人財
- ・福岡・九州とアジア・世界をつなぐ陸・海・空の広域交通拠点

魅力ある都市の力、コンパクトさ、住みやすさ

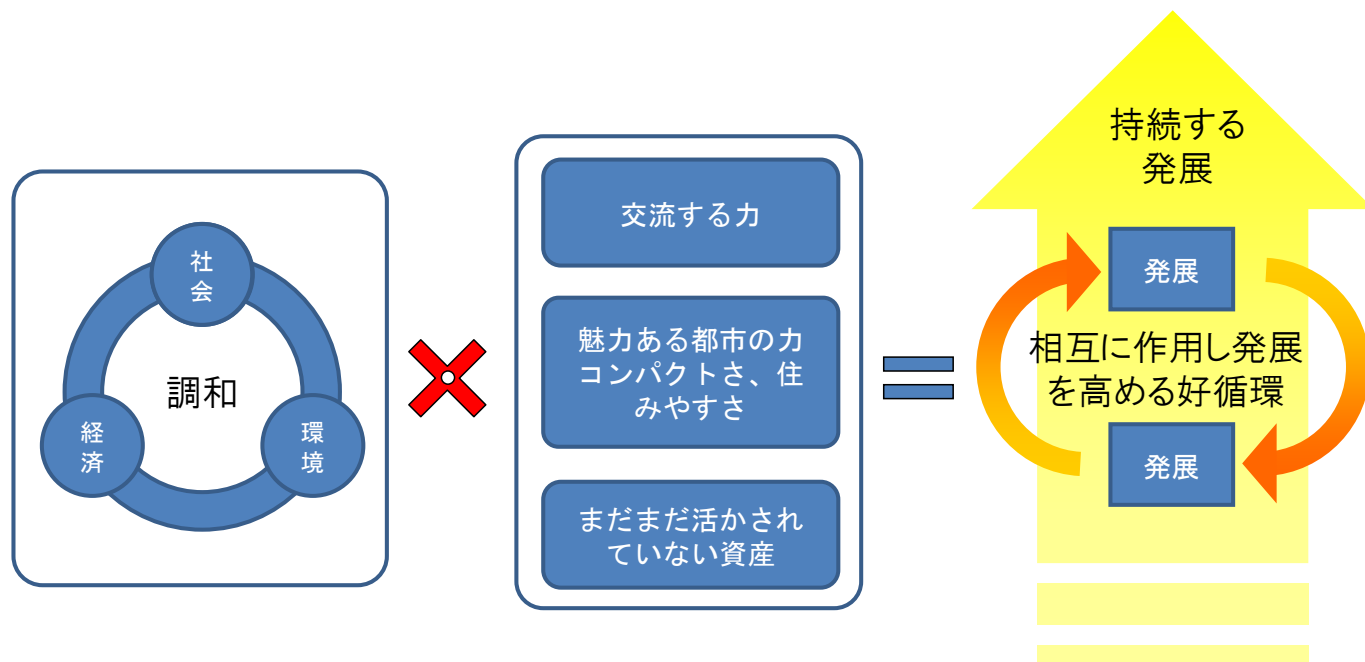
- ・人と人が交わり活気と魅力にあふれた都心
- ・住・職・遊の近接性
- ・都市のすぐ近くにある自然環境
- ・都市圏の充実した公共交通網
- ・大都市の便利さと暮らしやすさの共存

まだまだ活かされていない資産

- ・福岡が誇る女性のパワーと感性
- ・昭和の時代をつくって来た“マイスター”のノウハウ
- ・プロチームや競技施設など充実したスポーツ資源
- ・長い海岸線を有する博多湾
- ・卒業後に福岡を離れる若い人材

新ビジョンへの提案：福岡型の持続する発展

「調和」と「強み」により、発展が発展を生む好循環をつくる



8

福岡型の持続する発展

地域への愛着を持って世代にわたって住み続けること、
創造と継承によりダイナミックに成長し続けること、
都市活動と自然の循環・再生が保たれること、
この3つの領域の調和と統合が図られながらバランスよく発展するため、

培われてきた交流力、
住・職・遊が近接したコンパクトな都市構造、
惹きつける魅力や憧れ、
まだまだ活用しきれしていない人的資産(潜在力)など、
福岡の強みを発展の「てこ」とし、

社会・環境・経済のバランスを失うような極端な負荷を与えることなく、
将来世代の発展可能性を損なわず、
状況の変化にも柔軟に適応しながら都市を形づくる要素が好循環を生み出し、
時を重ねるごとにその好循環が自然と高まる(状況をつくる)こと

好循環を生む6つの発展イメージ

①多様な交流による発展



②世界的なイベントを開催し続ける発展



③水・緑と文化創造が調和する都心の発展



④地域愛が満ち溢れる自律型コミュニティの発展



⑤明確な都市軸に住みやすさが持続する発展



⑥身近な自然を活かした発展



①多様な交流による発展

活かし切れていない
資産を活力源に変える

○女性のパワーによる活力と感性による
まちのやさしさの向上
○退職者のノウハウと若者のパワーの
コラボによる新たなチャレンジ

新たな時代を担う
交流人財が集う

○積み上げた交流ネットワークを活かした
人財の育成
○日本人らしさと国際感覚を持った交流
人財による福岡らしさの継続
○交流人財による集客・企業誘致

新たな交流創出の
発生源になる

○交流力の向上による新たな交流創出
○福岡・九州の交流資源とアジアをつなぐ
ネットワークの拠点

10

「多様な交流による発展」

なぜこの発展なのか？

現状

- ・福岡は交流により成長してきた
- ・空港、港湾などゲートウェイ機能・実績を持つ
- ・中国・韓国の競争力が急激に向上
- ・福岡では、国際交流できる、活用するのは一部の
- ・国内に目を向けると世代間交流は希薄に
- ・九州の都市間での一体的な取り組みが不十分

このままでいくと

- ・経済の中心はユーラシア大陸へシフト、福岡は人口減少を流入人口で補えず、商業が衰退し、九州の競争力も低下
- ・新たな産業や雇用が生まれず、社会保障費の増加が経済の足かせとなる
- ・メンテナンスさえもできないインフラ
- ・グローバル化に伴う「日本人」としてのアイデンティティの喪失

着眼点

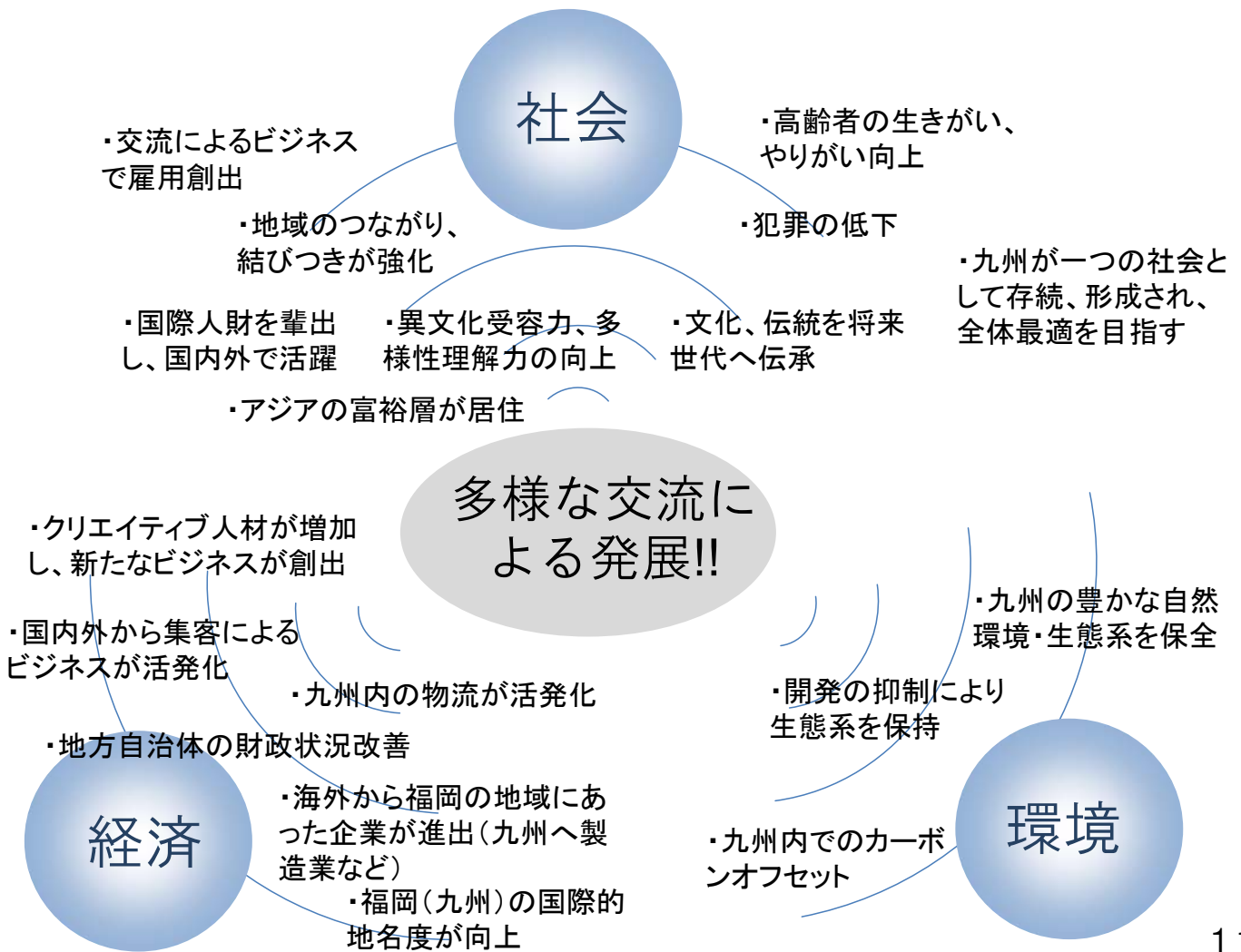
- 1 「活かしきれないもの」を活用する
 - ・女性の高いレベルの労働力を社会・経済発展の推進力に
 - ・インフラや物流機能を九州全体で活用する
 - ・高齢者を見聞やノウハウを持つ人財として交流の実践者に
・培ったアジアとの交流ネットワーク
- 2 交流してきた実績を活用し、時代に対応できる人財を育てる
 - ・外国語・異文化教育、親福岡人コネクションを活かした留学
 - ・留学生との交流によるコミュニケーション力の向上
- 3 交流する力をつけることにより日本人らしさ(謙虚さ、礼儀正しさ、誠実さ等)を保つ
 - ・日本のよさ・文化・伝統を再認識し、国際感覚を身につける(門前払い、迎合ではない)

発展イメージ(定義)

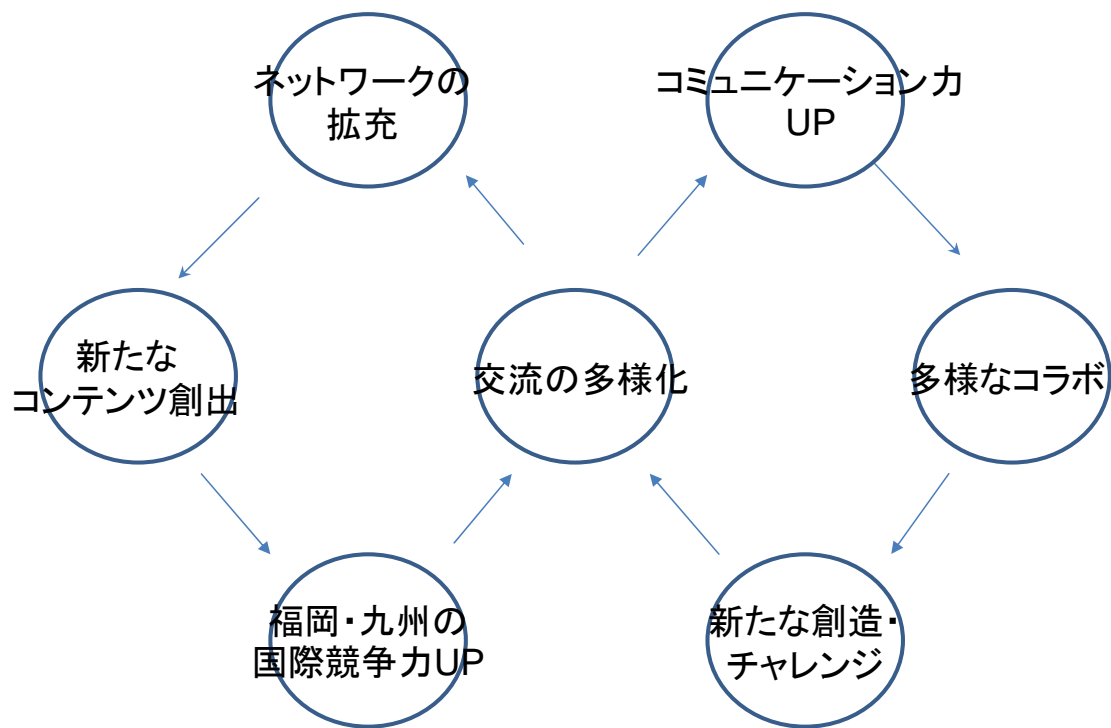
- ・若者も高齢者も、誰もがチャレンジすることによる発展
- ・外国語、異文化、多様性を理解する風土が醸成される発展
- ・福岡に海外から高度人材が集まり、新たなビジネスが生まれる発展
- ・国内外富裕層の居住者が増えることによる発展
- ・日本人の良さと国際感覚を持った人財を創出する発展
- ・交流する力によって福岡だけでなく、九州全体最適につながる発展

目標への貢献

- ・住み人、働く人、訪れる人の増加
- ・進出企業、起業者の増加
- ・福岡に愛着を持ち社会貢献する人財を創出
- ・経済を活性化する国際人財の創出 (特にクリエイティブ産業)
- ・既存インフラの有効活用
- ・九州の各地の自然・文化・産業を生かした一体的な取り組みへの貢献(道州制の口火となる)



多様な交流による好循環(グッドスパイラル)



多様な交流による発展(具体策)


拠点地区 (都心や結節点) × 福岡女性の パワーと感性 = 魅力と憧れの 活気ある都市

・女性の活躍による経済活性化
・女性の感性でユニバーサルシテイのトップランナーに

・セントラルパークで仕事に 潤いと生活・育児にゆとり

・保育所、医療施設を 拠点地区に整備
・ワークシェア等の制度

女性の感性
都市生活の彩りに



マイスターの 知識・経験 × 若者の元気 (大学の力) = チャレンジ都市


・優秀な高齢者人材によるベンチャー支援、若手人材育成
・経験豊富な退職者と大学(若者)とのコラボによる起業の創出



国際交流資産 (親福人、留学生) × 交流人材 未来の交流人材 = 国際感覚あふれる 日本人集積都市

・教育機関・海外展開企業をネットワーク化し、 多世代、多人種がともに学べる環境整備

・共存を図るスタンスと相手を 「もてなす」心をビジネスに反映
・居心地のよさが内外からの リピーターと高感度人材集積
・国際感覚と日本人らしさ(謙 虚さ、勤勉さ等)を兼ね揃えた 人材を求めて国際企業が集積



九州の観光資源 農産資源 × 福岡からの発信・受け入れ = 九州の一体化 ブランド化

福岡・九州の多様な資源(都市・観光地、自然、農林水産品と広域交通ネットワークなど)を活かした新たな九州ブランドやコンテンツの創造により、さらなる交流を生む




②世界的なイベントを開催し続ける発展

イベントによる
交流を生みだす

- 知識やノウハウの継承
- スポーツ・文化を発展させる土壌の育成
- 都市アイデンティティの強化

環境とイベント開催
の調和

- コンパクトでつながりのある都市構造
(空・海・陸・会場・宿・食・遊)
- イベント参加者に最高の環境を提供
- イベントの継続による良好な環境の維持

イベントによる
経済発展

- 外国人観光客の増加
- ビジター・文化産業の発展
- 福岡の魅力を世界に発信

14

「世界的なイベントを開催し続ける発展」

なぜこの発展なのか？

現状



このままでいくと

- ・国内集客は横ばいだが、インバウンドは昨年過去最高の76万人を記録
- ・国際コンベンション開催数が東京に次いで日本第2位(学会を中心に強いニーズ)
- ・世界での知名度が低く、観光要素に乏しい

- ・中国からのショッピング観光が他のエリアにシフト(現に台湾は北海道にシフト)
- ・ユニバーシアード以来の継続的なスポーツコンベンションの流れが途絶える
- ・ノウハウのある世代が引退し、二度と世界規模のイベントが開催できなくなってしまう
- ・ハコが充実した新興地域にイベントコンベンションが集中してしまう(世界的なMICE競争に負けてしまう)

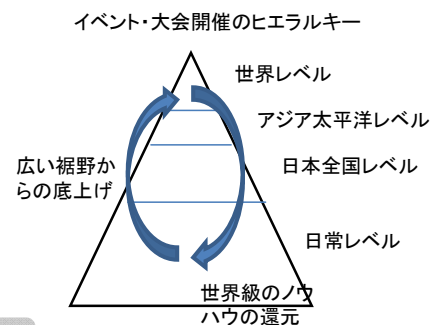
着眼点

1 交流の視点

・365日何らかの催しがある、すそ野がひろいまちだからこそ、イベントの開催能力が向上し、世界的なイベントも呼び寄せ、開催できる発展を遂げることができる(世界的イベントの誘致・開催に強い都市)。

2 コンパクト・魅力の視点

・便利なところ、快適なところ(自然環境)、市民が愛着がもてる場所に集客を効率的に集めていく発想(アスリートや会議参加者に最高の環境を提供)。もちろん、コンパクトで宿泊も移動も便利、イベントのあとの楽しみ(食べ物、ショッピング)が豊富という都市の力
・ストック観光資源がない福岡の生き方(祭り・イベント好きという市民気質、競争に勝ち抜くにはフローの継続性)



発展イメージ(定義)

- ・イベントの継続開催によって、人を呼び込みたいというモチベーション、チャレンジ精神や好奇心、継承される知識やノウハウが持続する発展
- ・クリエイティブ人材が集まり、産業が質量ともに発展
- ・魅力的なまちがより魅力的になる好循環発展
- ・快適なところには、市民も旅行者も集まるという発展

目標への貢献

- ・訪日外国人の増加への貢献
- ・雇用の創出への貢献
- ・良好な環境へのアクセスの向上に対する貢献
- ・環境の保全と住環境の向上への貢献

社会

・都市ブランドの向上

・都市の一体性やアイデンティティが強化

・プロスポーツを核とした地域スポーツ文化の育成

・環境を享受する住まいが充実
・管理が行き届いた身近な自然へのアクセス向上

・定住者にとっても健康を維持できる良好な環境を享受

・子どもたちをイベントに参加させることで、国際人を育成

世界的なイベントを開催し続ける発展!!

・産業発展のための知識やノウハウが継承

・インバウンドの増加による基礎的な経済活性化
・ビジター・文化産業の発展

経済

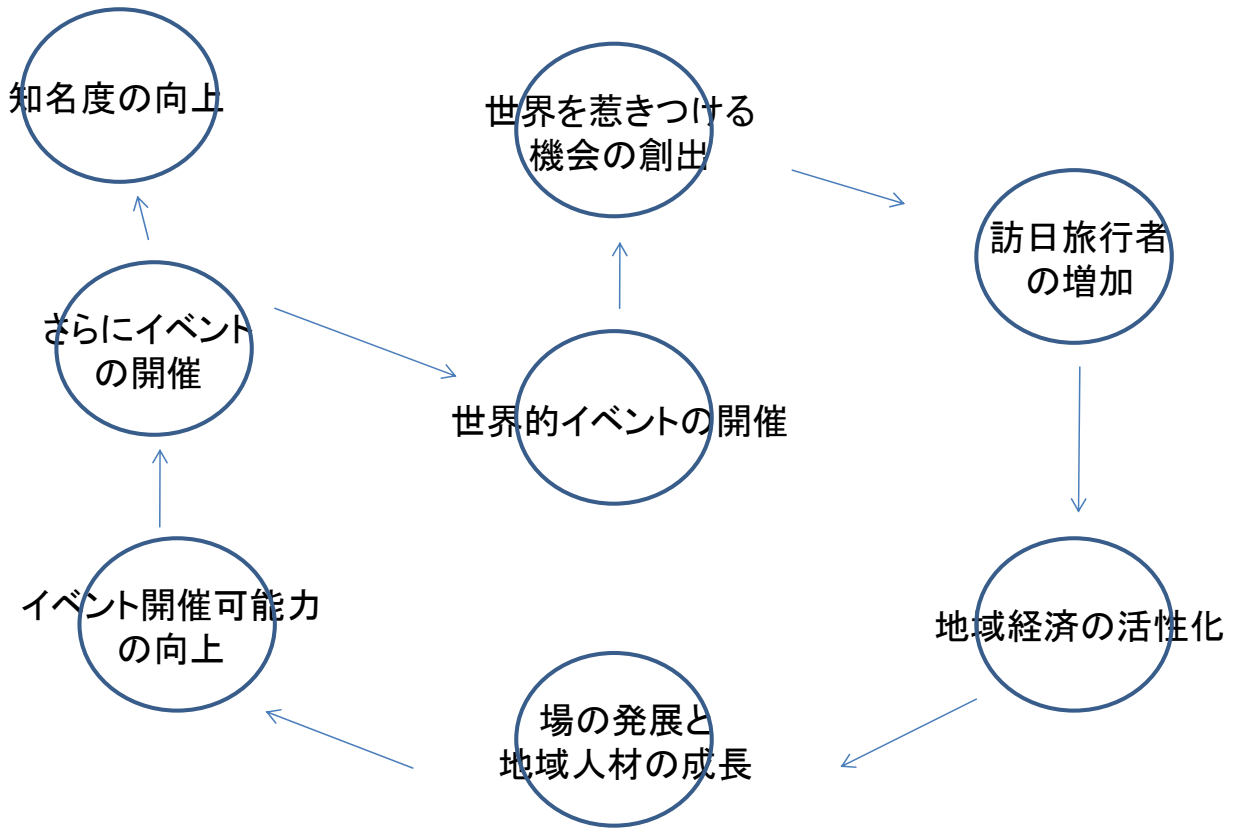
・開発に伴う自然エネルギーの普及

・水と緑の環境再生、環境創造

・自然に近いエリアの資産価値の向上

環境

世界的イベント開催による好循環(グッドスパイラル)



「世界的なイベントを開催し続ける発展」25年後のイメージ

—海と緑を活かした持続可能なイベント開催都市

—豊かな自然と集客施設が調和した4つのクラスターでイベントをコンパクトに開催し、日常から世界からビジターを引き寄せる！

将来はオリンピックが開催できるほどの発展へ！

福岡以外の国際玄関口（北九州空港）からの連結強化

すべてのエリアに公共交通での移動を可能（博多駅から海の中道までの直通電車）

海の中道クラスター

自然豊かなレクリエーションエリアでスポーツ競技や音楽イベント等が開催

雁の巣レクリエーションセンター

マリニワールド

エリアに必要なエネルギーをできるだけその場の自然エネルギーで供給

海上交通による移動

海外からのビジターに配慮したターミナル移動

東平尾クラスター

施設が充実し、立地のいいエリアで、身近な自然を感じながら、多様なスポーツを開催

東平尾公園

都心クラスター

賑わいの中心の都心エリアで、毎日のまちなかイベントをベースに、国際会議や陸上・屋内競技、文化イベントを開催

既存の交通インフラを十分に活用する移動

福岡以外の国際玄関口（佐賀空港）からの連結強化

百道・小戸クラスター

ヨットハーバーやビーチ、ドーム球場などの自然と施設が充実したエリアで、マリンスポーツやプロスポーツ、夏のフェスティバルなどを開催

小戸ヨットハーバー

百道浜

平和台陸上競技場

ヤフードーム

天神

博多駅

マリニメッセ

③水・緑と文化創造が調和する都心の発展

環境と文化創造の調和

- 点在した魅力ある空間を繋ぐ仕組み
- スポーツ・文化を発展させる土壌の育成
- 都市アイデンティティの強化

住み続けられる都心空間を生み出す

- 教育を含めた住環境の向上
- ファミリー世帯の都心居住
- 次世代の居住可能性の維持

居心地のよい空間を生み出す

- 水辺を活かした住・職・遊空間の発展
- 身近な自然の再生
- 環境インフラの充実

「水・緑と文化創造が調和する都心の発展」

なぜこの発展なのか？

現状

- ・水辺や公園の環境悪化、周辺の空き地の増加
- ・都心では子育てしにくく、こどもの減少による学校の統廃合
- ・施設やインフラの老朽化、文化施設や公共交通（市営渡船等）の経営難、水辺に背を向いた施設

このままでいくと

- ・水辺や公園に人が立ち寄りなくなり、再生不能なレベルまでの環境が悪化
- ・住環境の悪化により、都心からファミリー人口の流出に歯止めがかからない
- ・都心の空洞化が進み、経済成長の機会が喪失
- ・陸上中心の低密度交通

着眼点

1 交流の視点

- ・昼間人口や観光客が集まる都心部には、交流人口が集中し、感度が高いクリエイティブ層の活動も盛んである。

2 コンパクト

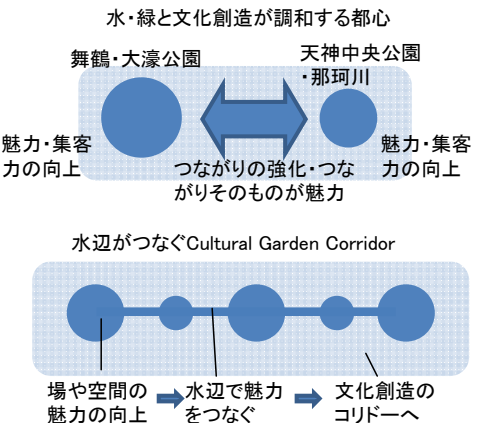
- ・コンパクトな範囲にポテンシャルのある水辺や緑などの自然空間が点在している。
- ・都心の社会経済活動と自然的環境が隣り合わせの距離にあり、アクセスしやすい関係がある。

3 魅力の視点

- ・公園や水辺、ウォータフロントなどは、元来、心地いい魅力のある空間であり、居住や仕事、学び、遊び等の活動と親和性の高いものとなっている。環境と調和する形で場や空間の魅力・アクセス・集客力の向上。

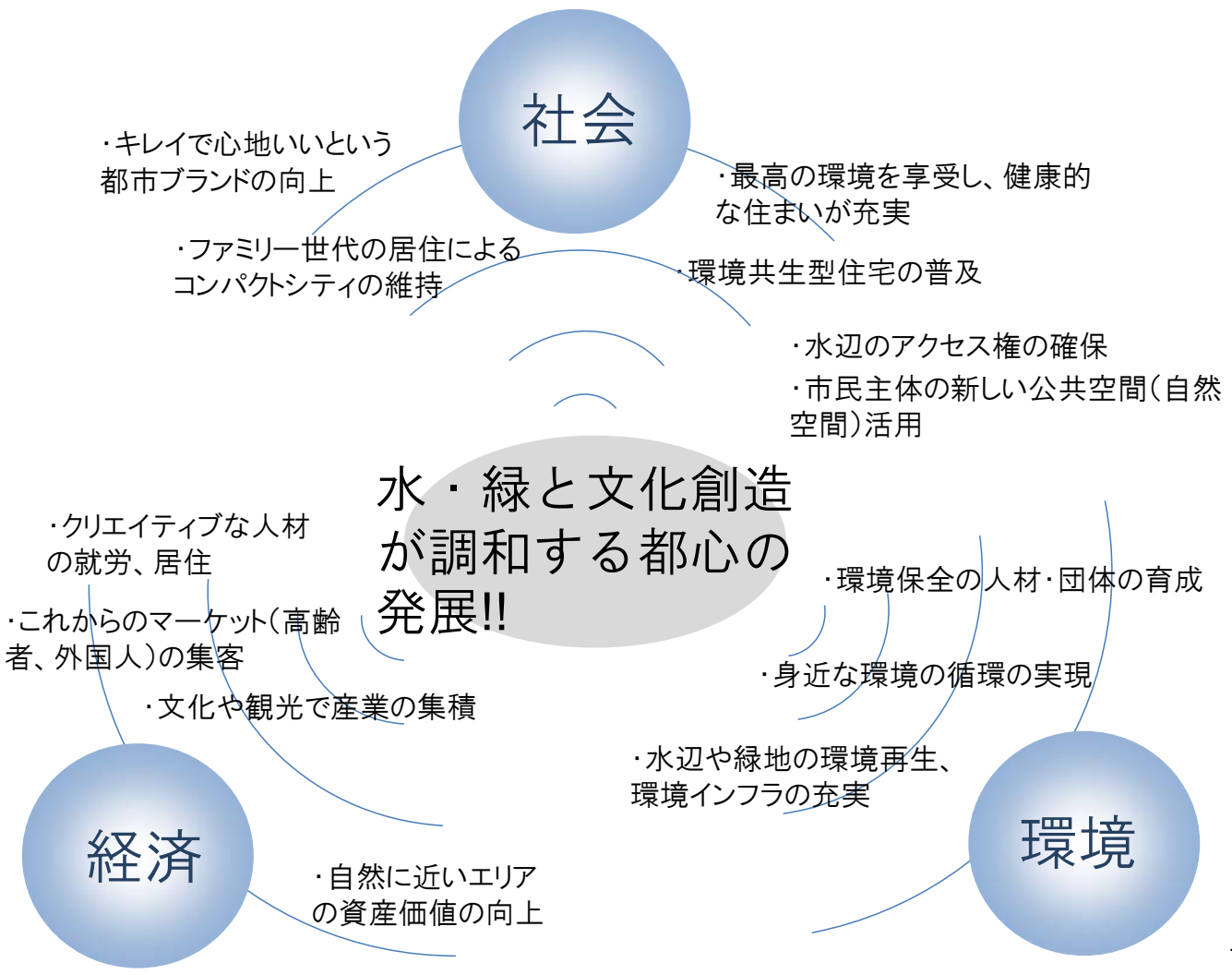
発展イメージ（定義）

- ・都心での自然的環境の再生と社会経済活動が調和する発展
- ・都心にファミリー世帯が住み続ける発展
- ・都心が新しい文化創造の場となり、集客が図られる発展
- ・自然と調和した場所で、起業したい・立地したいと思うようなビジネス環境が創出される発展



目標への貢献

- ・都心の居住人口・生産人口の維持、増加
- ・都心の資産価値の向上
- ・産業の集積と雇用の創出
- ・環境へのアクセスの向上





①観光水上バスの充実
 ・柳橋連合市場からベイサイド
 プレイス、その先の博多湾各地
 の水辺の魅力を結ぶ観光交通



②Cruise Park(中央ふ頭)
 ・外国クルーズが発着する
 港と市民の散歩道が調和し
 た公園



③世界の着目を浴びる観光広場
 (サンパレス福岡)
 ・海を街に近づける、親水性のあ
 る環境調和型広場



④Food Park(博多ふ頭)
 ・棧橋と船だまりの利用転換
 により、シーフード、ショッピングが
 ミックスされたガーデンエリア



⑤昼も夜も癒される文化(博多川回廊)
 ・快適な環境空間でイベントステージや川くだりなど
 の文化的な楽しさ



⑥食の観光資源化
 (柳橋連合市場)
 ・施設内の観光とオープンなイ
 ートインスペースの形成



⑦観光の名所となる公園橋
 (春吉橋・福博であい橋)
 ・お土産店やライトアップなど
 により、橋を観光名所に転用



将来にわたって、
 海から見た景色
 を保全・創造

水辺がつなく Cultural Garden Corridor

⑫Athletics Park
 (須崎ふ頭基部)
 ・市民体育館の機能移転
 により、海と調和した最高
 の体育・競技環境を創出



⑪Beach Park(競艇場)
 ・競艇場の廃止により、人工海岸
 による環境再生、住宅、会議場やオ
 フィスがミックスされたガーデンエリア



⑩環境と共生するResidential Park
 (博多ふ頭、那珂川河川沿い)
 ・駐車場や空き地の転用により、ファミリー向け公営・民
 間住宅や水上バス拠点などがミックスされたガーデンエリア



⑨Creative Park(須崎公園周辺)
 ・市民会館の建て替えに伴い、新会館
 (舞台芸術)、クリエイティブ人材の居住
 地、関連産業等が集積したガーデンエリア



⑧観光Destination Park
 (中央公園・市庁舎)
 ・市役所広場の活用により、都市の
 象徴として誰もが訪れる広場



④地域愛が満ち溢れる自律型コミュニティの発展

住みやすい
コミュニティへ発展
する

- 地域内住み替えサポート
- 地域情報の集約と魅力発信
- 繋がりによる安心感

新たな交流を
生み出す

- 出逢いの場の提供による新しい繋がり
- 地域住民による学校運営サポート
- 公民館の高機能化

眠っている人財を掘
り起こす

- 自治協議会の法人化と自律運営
- 高齢者や地域人材による地域課外授業
- 顔の見えるコミュニケーションによる人財の発掘

23

「地域愛が満ち溢れる自律型コミュニティの発展」

なぜこの発展なのか？

現状



- ・地域内でも人間関係が希薄化し、多世代間の交流機会が減少。
- ・町内会加入率が低下し、地域活動の担い手が不足。
- ・単身世帯(若者・高齢者)が増加するとともに、単身高齢者の孤立化が進んでいる。
- ・転出・転入者が多く、地域を知る機会がなく地域活動デビューに至らない。

このままでいくと

- ・高齢者の孤独死の増加
- ・子育ての孤立化
- ・災害時緊急対応の遅れ
- ・犯罪の増加
- ・空き家が増えることによる地域の賑わいのおとろえ
- ・自治協議会の消失
- ・行政サービスの負担増加

着眼点

- 1 新しい交流の場を創出することにより、他分野(交通安全・青少年の健全育成・防犯・防災等)への広がりにつなげていく。
- 2 全国的にも珍しい小学校区単位の組織・拠点施設を活用する。
 - ・自治協議会組織を充実させることにより、福岡型コミュニティを発展させる。
 - ・公民館を新たな視点で地域活動拠点として活用することにより、身近な活動の場を提供する。
- 3 行政機能が麻痺した場合には、地域力(コミュニティ)こそが住民自身の支えとなる。

この発展の定義

- ・活力あるコミュニティが持続する発展
- ・魅力的な人材が集まり、新たな交流がうまれていく発展
- ・世代間の交流による、顔のみえるコミュニティ活動の発展
- ・地域内校区内住み替えによる発展
- ・地域内人材発掘・能力活用による発展
- ・魅力ある機能を兼ね備えた活動拠点としての公民館の発展

目標への貢献

- ・犯罪の抑制の貢献
- ・若い世代の地域活動参加機会の増加への貢献
- ・地域活動による顔みしり増加への貢献
- ・新しい人材発掘による地域活動担い手の増加への貢献

社会

- ・地域による子育て力向上
- ・子育て支援による女性の労働力活用

- ・地域愛の醸成
- ・地域の顔見知りの増加

- ・家族構成に対応した住宅整備
- ・住み替えサポートによる地域内定住者の増加

地域愛が満ちあふれる自律型コミュニティの発展!!

- ・子育てや高齢者向けの地域活動をサポートする新たなコミュニティビジネスの創出

- ・ニート・高齢者の雇用(活躍)の場を創出

- ・住み替えサポート支援の住環境ビジネスの発展

- ・つながりのあるコミュニティによる犯罪の抑制

- ・行政に頼らない、地域防災力の向上

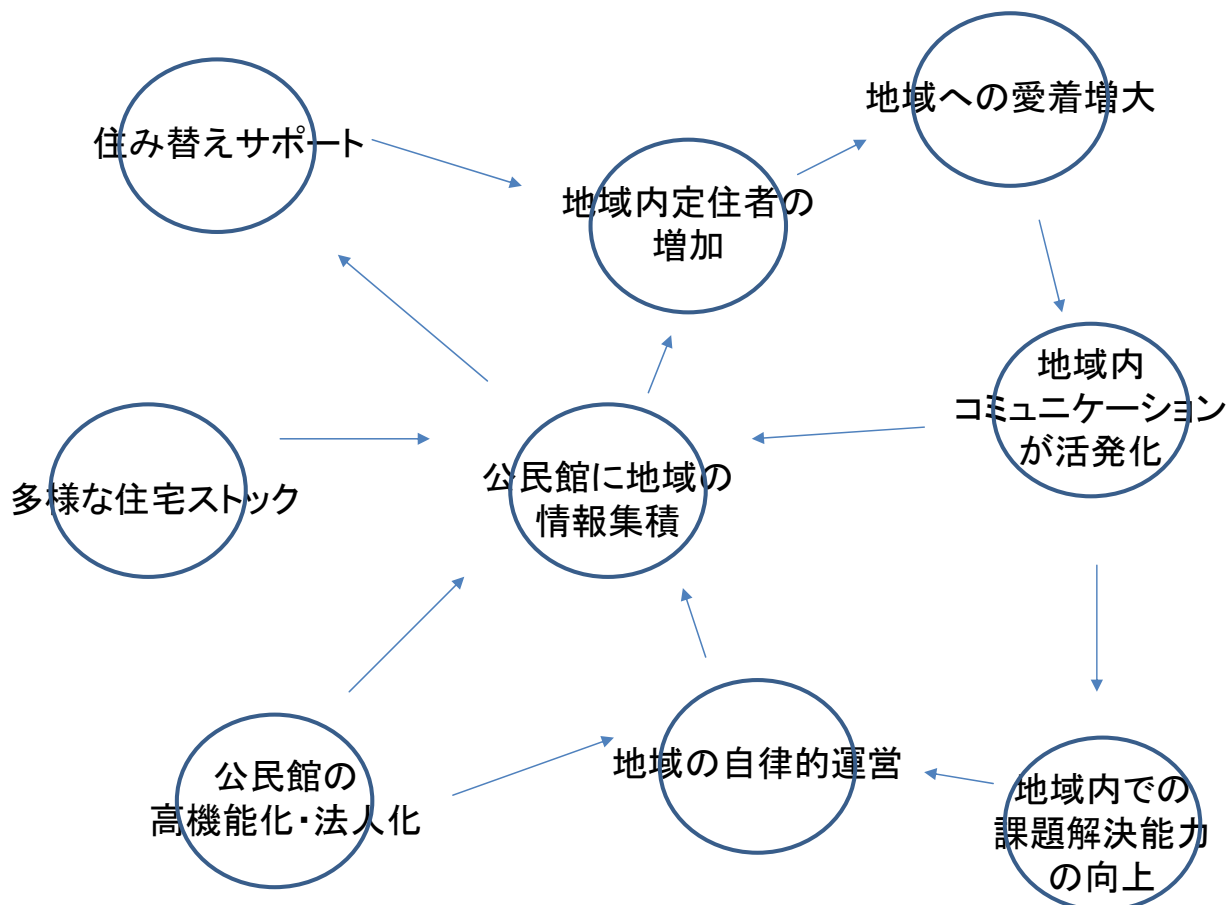
- ・地域内課外授業を通じた環境意識の向上

- ・環境に優しい地域の創出
- ・地域内資源の有効活用(エネルギー、住宅ストック)

経済

環境

自律型コミュニティの発展による地域活性化による好循環(グットスパイラル)



自律型コミュニティの発展イメージ

■ 公民館の高機能化イメージ

コミュニティ Cafe

地域情報

- ・世帯情報
- ・不動産情報
- ・ペット情報
- ・得意分野情報
- など



- ・多世代が交流できる場
- ・新しい交流が生まれる場
- ・顔見知りが増える場

- ・地域内住み替えサポート
- ・地域婚活サポート
- ・地域ペットサークル運営
- ・地域寺子屋
- ・学校運営サポート

自治協議会の法人化と 自律的運営

- ・地域内税金の一部を自治会の財源に還元
- ・高齢者やニートを運営スタッフとして雇用
- ・不動産情報を紹介し、地域内住み替えを推進
- ・婚活事業により、未婚率の低下

ペットや趣味を通じた新しい 住民交流を築くサポート

- ・ペットや趣味など共通の話題を通じて、住民同士のコミュニケーションが活性化



地域内課外授業・住民による 教育体制のサポート

- ・高齢者や地域内人材(専門知識)が講師となり、地域の歴史や専門分野の授業を実施
- ・地域住民による学校運営のサポート
- ・地域住民がクラブ活動の顧問や指導者

校区・地域内住み替えスパイラル

・家族構成や年齢による引っ越しを同一地域(校区)内でおこなうことにより、地域への愛着、地域の担い手育成、地域内コミュニケーションが持続的に発展

【家族構成 の変化】

若者の1人暮らし

夫婦2人暮らし

家族4人暮らし

夫婦2人暮らし

高齢者1人暮らし

1Rマンション

2LDKマンション

3~4LDKマンション・戸建て住宅

ケアマンション・高齢者施設

【居住形態】



⑤明確な都市軸に住みやすさが持続する発展

交流できる快適な
都市空間を生み出す

- 道路(車道)空間の人・自然への還元
- まちを歩く人の動脈づくり
- お出かけしたくなる通りの創出

コンパクトさを活かし
利便性を極める

- 既存の幹線交通網を活かした都市軸
- 住・職・遊の都市軸へのさらなる集積
- 陸・海・空の拠点の有機的連携

誰もが移動しやすい
交通網をつくる

- わかりやすく使いやすい公共交通網
- 自動車がなくとも活動できる交通体系
- 交通弱者を生まない交通サービス確保

27

「明確な都市軸に住みやすさが持続する発展」

なぜこの発展なのか？

現状



このままでいくと

- ・商業・業務地は都心部を中心に集積
- ・市中心部から約10^{km}に市街地をコンパクトに形成(市街化区域内の約8割が都心部まで公共交通機関利用による30分圏域)
- ・すでに人口減少・超高齢社会の到来した地域が出現
- ・自動車利用による移動が引き続き増加

- ・人口減少・自動車利用の増加等により、バス利用者が減少し、バス路線の休廃止が相次ぐ(公共交通空白地の増加)
- ・バス路線の休廃止により、移動手段が限られるため、人口減少・自動車利用が進展する
- ・人口減少が進むとスーパーなどのまちなかの商店街がなくなり、不便なまちへと…

着眼点

- ・高齢者(65歳以上)の最もよく利用する交通手段はバス
- ・公共交通が利用しやすい既存の幹線道路網(公共交通軸)を最大限活かす
- ・公共交通軸に人・機能を集約し、利用者の増加、利便性の向上を図る
- ・車中心の道路空間を人や自転車を中心にした快適なまちへ
- ・高齢者にも来街者にもわかりやすい公共交通体系・システムにして買い物などお出かけしやすいまちに

発展イメージ

- ・公共交通サービス・利便性の向上(外出機会の増加)による発展
- ・道路空間の有効活用(歩道の拡充や自転車走行空間の確保など)による発展
- ・都市機能(住・職・食・楽)の集約による発展

目標への貢献

- ・公共交通のサービス向上による外出機会の増加(交流・消費の増加)
- ・公共交通沿線・拠点への投資の増加
- ・効率的な行政運営(維持管理等)
- ・CO2の排出減(低炭素社会)
- ・既存ストック(道路網)の有効活用

社会

・既存の道路網・空間の有効活用

・交通弱者(特に高齢者)や
来街者の移動が容易に

・都市ブランドの向上

・都市の一体性や
アイデンティティが強化

・外出機会が増加

明確な都市軸に 住みやすさが 持続する発展

・人や自転車・緑の空間が増加

・公共交通軸・拠点への
投資の増加(選択と集中)

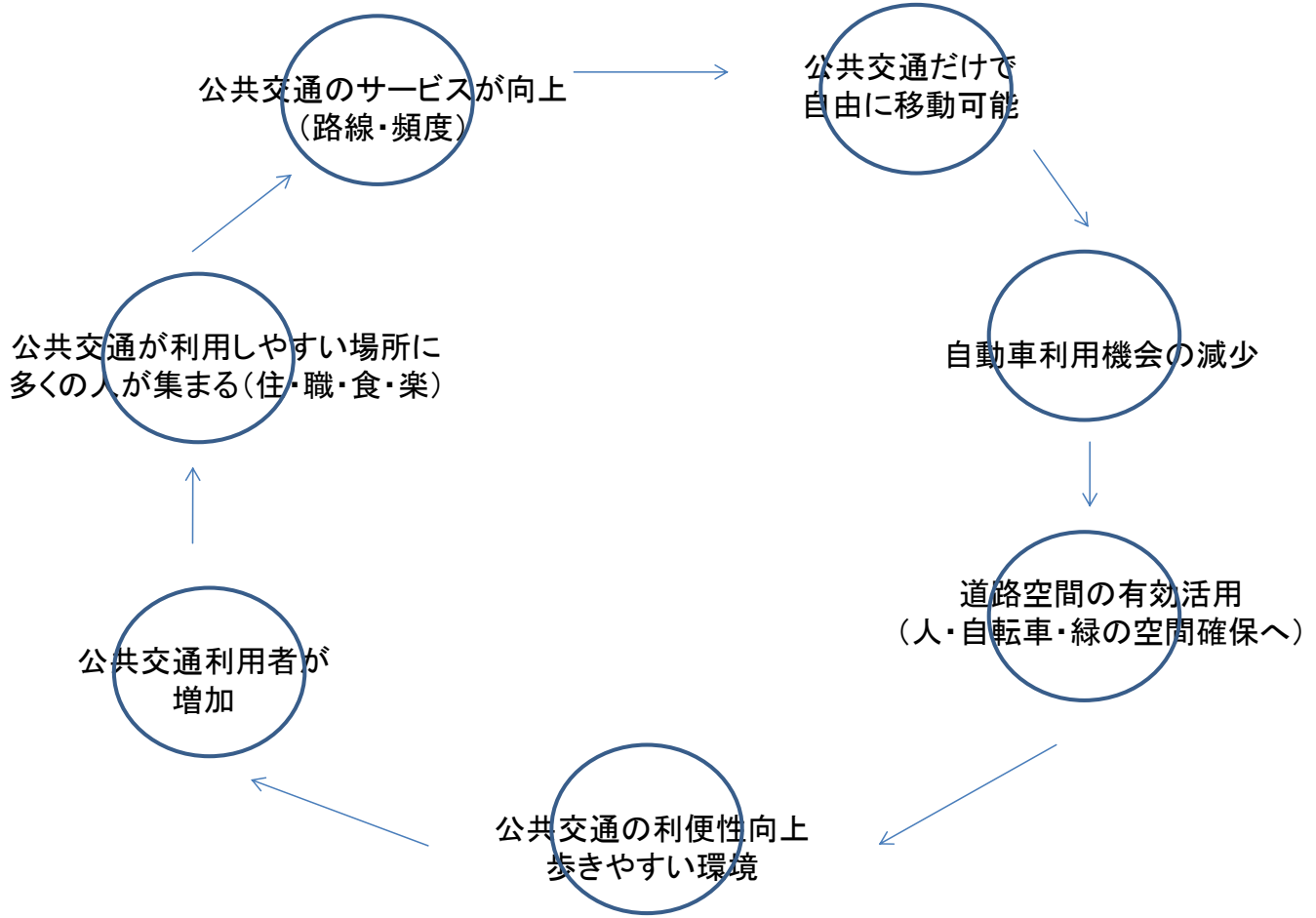
・自動車利用から公共交
通利用へ(低炭素社会)

経済

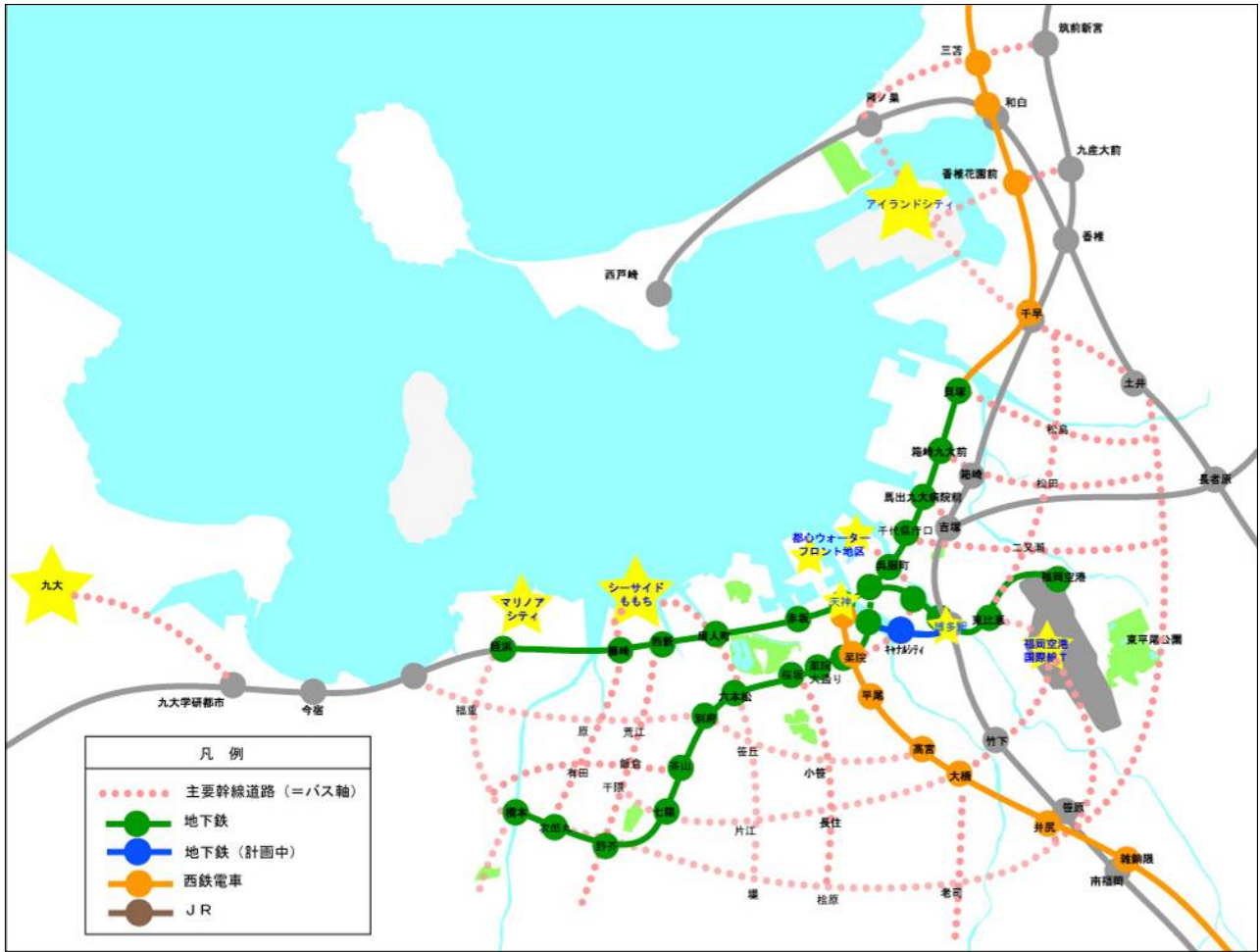
・公共交通軸・拠点に沿った
効率的な都市構造

環境

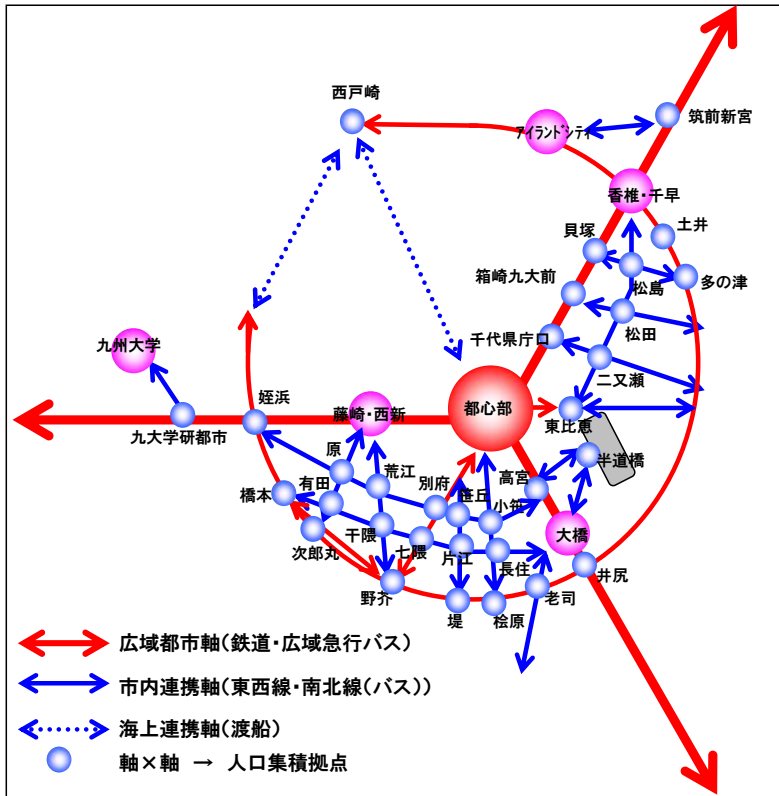
明確な都市軸に住みやすさが持続する好循環(グッドスパイラル)



「明確な都市軸に住みやすさが持続する発展」



「明確な都市軸に住みやすさが持続する発展」



人口集積拠点における再開発促進



市内連携軸ではバス優先施策を展開(専用道路・PTPS)

一体的な交通事業の運営
= 準公営化

「明確な都市軸に住みやすさが持続する発展」

■交通事業者の収入根拠を運行距離へ変更

【従来方式】

利益は乗降客数が基準



【新方式】

利益はサービス供給量(台数×Km)
で決定

■ICカード利用による料金収入の一元化及び再配分

全ての運賃収入は一旦福岡市(或いは代表的な交通事業者)がプールし、90%を走行距離に応じて各社へ配分、10%をインセンティブとして各社の評価(年1回)に応じて配分



- 10kmまで初乗り運賃、以後5km毎に追加課金
- 各交通機関同士の乗り換えは無料(最高3回まで)

⑥身近な自然を活かした発展

身近にある自然
を活かす

- 自然体験を活かした教育
- 多様なライフスタイルへの対応
- 都心と田舎の交流促進

新たな交流を
呼び込む

- 学びの場・ふれあいの場の提供
- 田舎部でのビジネス創出
- 自然を体感できる空間の創出

自然環境を
守り続ける

- 体験の場の提供による耕作放棄地の活用
- 市民や企業の社会貢献意欲
- 自然とふれあう環境による意識啓発

33

「身近な自然を活かした発展」

なぜこの発展なのか？

現状



このままでいくと

- ・都市部と自然豊かな田舎部が近接していながら、活用されていない
- ・人口減少による田舎部の衰退
- ・担い手不足による耕作放棄地等の増加
- ・都市部の市民が自然とふれあう機会の減少

- ・都市部の市民は、自然体験を求めて市外へ流出。
- ・さらなる人口減少による集落の存続危機。
- ・耕作放棄地や荒れ地の増加による環境への悪影響。
- ・都市部の市民が自然とふれあう機会のさらなる減少

着眼点

- ・福岡が備え持つコンパクトシティの優位性を活かす。
- ・オン(都市)とオフ(自然)がすぐに切り替えられる。
- ・自然を体感できる空間を創出し、さらなる人の交流とビジネスを呼び込む。
- ・多様で質の高い自然の保全を図る。
- ・多様なライフスタイルの創出により、市民の幸福度向上を目指す。

この発展の定義

- ・都心と田舎を活かしたライフスタイルによる発展
- ・市民・企業による里山などの保全活動での発展
- ・都心と田舎の交流促進による発展

目標への貢献

- ・地域活性化への貢献
- ・雇用創出への貢献
- ・環境保全への貢献

社会

- ・多様な体験による豊かな人間形成
- ・余暇の充実によるストレス緩和
- ・交流機会の増
- ・農業体験などの学びの増
- ・高齢者・単身者の生きがい増

身近な自然を 活かした発展!!

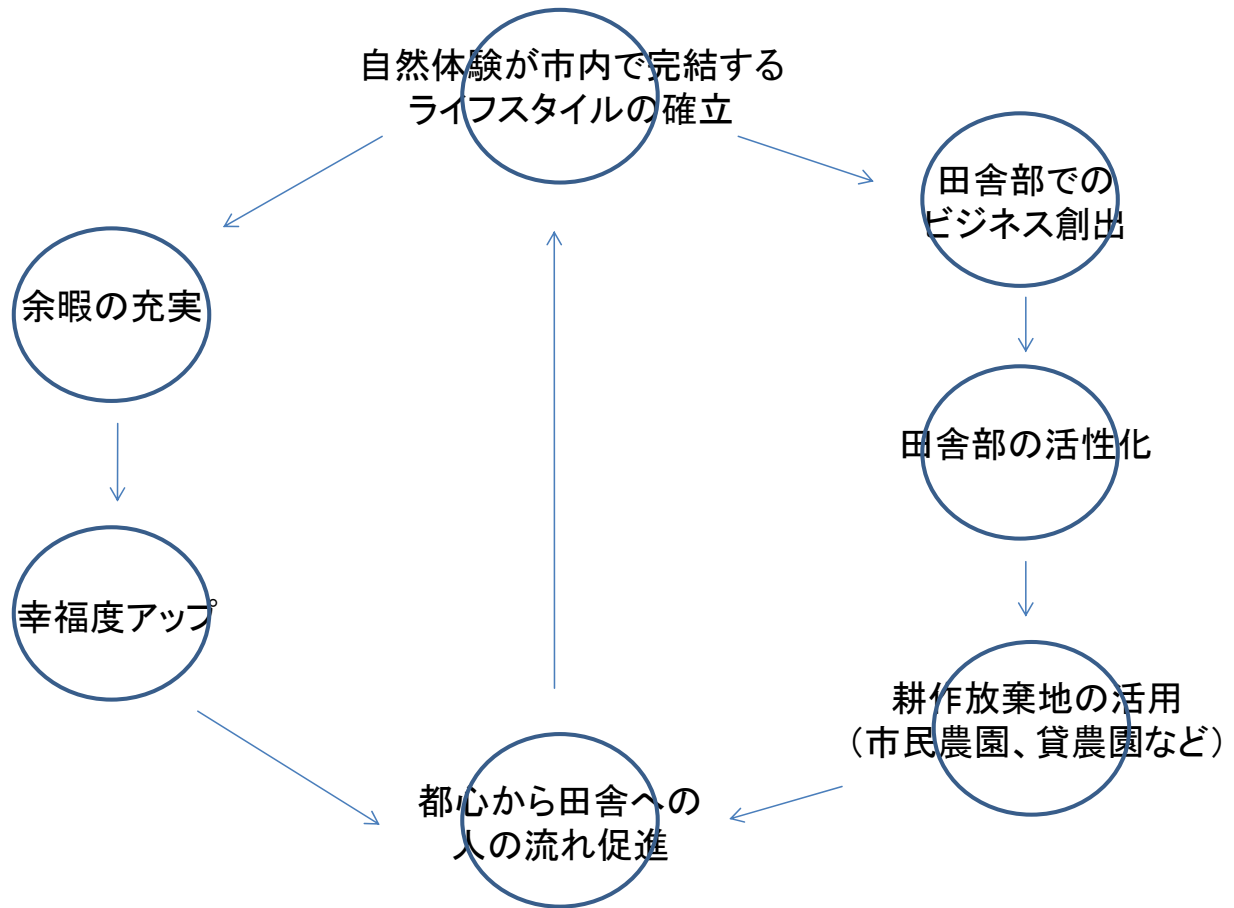
- ・田舎部の雇用増
- ・観光集客の増
- ・定住したい都市としての魅力増
- ・市民活動による維持管理費の軽減

経済

- ・環境保全の意識向上
- ・耕作放棄地の活用
- ・多様な自然の保全

環境


都心と田舎を活かしたライフスタイルによる好循環(グッドスパイラル)



身近な自然を活かした発展



農業塾や田舎遊びインストラクターなど、田舎部でのビジネスが創出されている。



市内の全小学校において、農業体験や自然体験を通じて環境や食などについて学習するプログラムが導入されている。収穫した農作物は給食に活用。




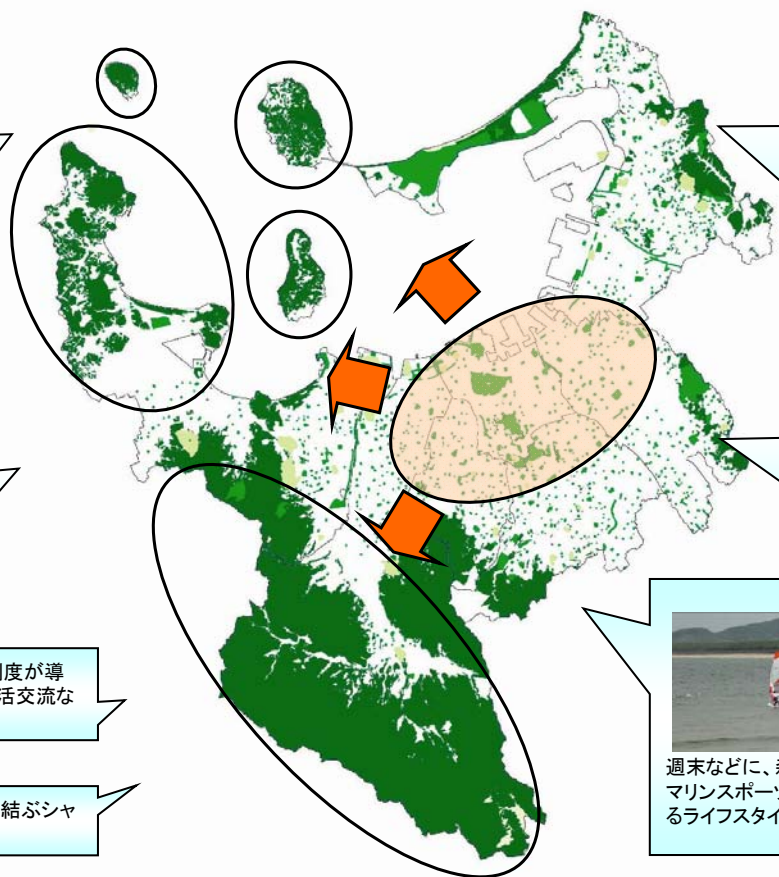
里山保全や海岸清掃などは、市民活動により自主的に行われている。



耕作放棄地が、市民農園や貸農園などに活用されている。

都市部と田舎部による姉妹校区制度が導入されており、農業体験交流や婚活交流などが行われている。

土日休日のみ、都市部と田舎部を結ぶシャトルバスが運営されている。



週末などに、森林浴、川遊び、虫取り、キャンプ、マリンスポーツなどの自然体験が市内で完結するライフスタイルが確立されている。

まとめ 「私たちが考える新ビジョン」

調和と強みのかけ算により

バランスの取れた

好循環が生まれる

福岡型の持続する発展

最後に

人と環境と 都市の調和

社会・環境・経済が調和した
福岡らしいバランスある発展こそが
“人と環境と都市の調和”の姿。

アジアの リーダー都市

「福岡のようなまちがいい」、
「福岡がみんなを幸せにしている」と
思われる“リーダー都市”。

チャレンジ し続ける都市

共感する人、納得する人がいて
初めてチャレンジが起きる！
そんな人々が育ち、集まる都市。

さあ、未来へ



福岡型の持続する発展

スイッチ・オン！

所管横断的テーマに関する職員提言チーム D班

上原 真之
佐藤 ひとみ
高島 美之
成尾 直之
西依 正博
藤本 和史
松本 真人
昀井 功二
吉田 宏幸
吉武 寛志



スーパーバイザー

青木 功